

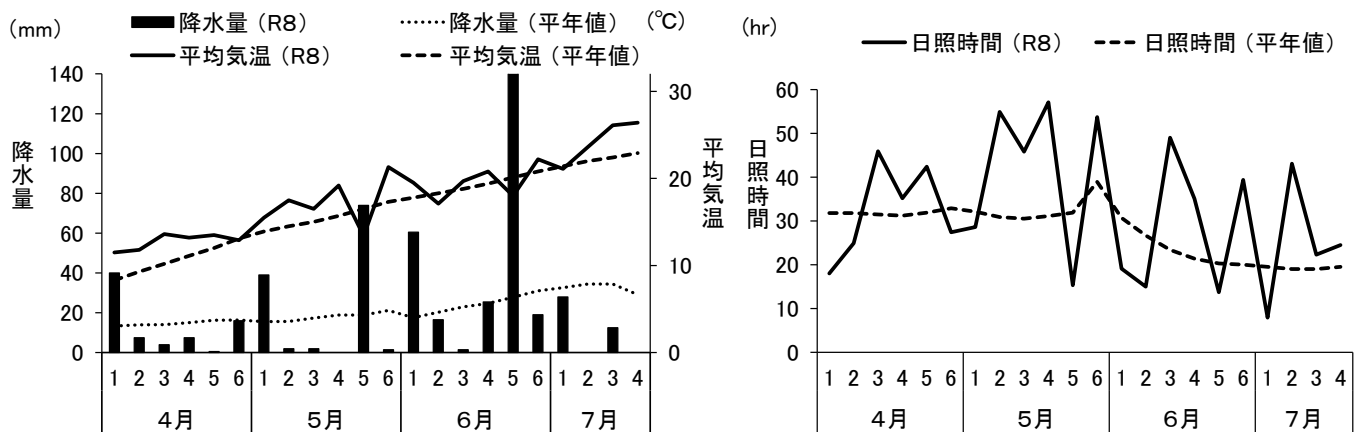
仙 台 稲 作 情 報 2026 (第6号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

○栽培管理のポイント

- ▷適切な水管理により高温障害を回避しましょう。
- ▷いもち病、紋枯病に注意してほ場を見回り、発生が確認されたら直ちに防除しましょう。
- ▷斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。生育ステージを確認して適期防除を実施しましょう。

1 気象経過 (仙台 令和8年4月第1半旬～7月第4半旬)



- ・7月中旬は期間を通じて高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温は平年より高めに推移しました。
- ・降水量は平年より少なく、日照時間は多くなりました。

2 管内調査ほの生育状況

(1) 移植栽培

移植栽培の草丈は、全体的に平年並みとなっています。茎数は仙台湾沿岸のひとめぼれ、ササニシキで平年より少なく、北部平坦のひとめぼれは平年より多くなっています。

葉色は、仙台湾沿岸のひとめぼれで減数分裂期の目安値（35～37）より低くなっています。

7月21日現在の幼穂長は、仙台湾沿岸のひとめぼれは68.5mm、ササニシキは159.4mmとなっており、すでに減数分裂期に達しています。北部平坦のひとめぼれは4.9mmで、幼穂形成期に達しています。（表1）

※幼穂形成期：幼穂長が1mm以上の長さになった時。出穂期の20～25日前頃。

減数分裂期：幼穂長3～12cm頃。出穂15～10日前頃。

古川農業試験場の5月11日移植ひとめぼれでは、草丈、茎数は平年並みで、葉数は平年より0.2枚少なくなっています。幼穂長は33mmで、平年値の-12.6mmとなっています。（表2）

表1 移植栽培における7月21日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点		田植日	栽植密度 (株/㎡)	7/21調査			
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	本 年	5/16	13.5	73.1	322	31.9	68.5
			前年(比・差)	5/23	15.8	99%	83%	-3.0	63.5
			平年(比・差)	5/18	14.7	99%	89%	-3.3	39.8
	北部平坦	大郷町	本 年	5/24	15.3	76.8	594	37.1	4.9
			前年(比・差)	5/18	15.0	100%	139%	+5.6	-6.1
			平年(比・差)	5/13	16.1	99%	122%	+4.4	-26.0
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	本 年	5/13	13.5	77.9	378	31	159.4
			前年(比・差)	5/18	14.7	95%	100%	-2.2	49.5
			平年(比・差)	5/13	13.8	98%	85%	-5.0	65.7
にじのきらめき	北部平坦	大郷町	本 年	5/15	19.0	81.2	627	35.7	3.2
			前年(比・差)	5/22	18.9	105%	178%	-1.9	1.9

※平年値は、直近5か年の平均値。にじのきらめきは、昨年から調査しているため平年値なし。

表2 古川農業試験場 生育調査結果（北部平坦 5月11日移植ひとめぼれ）

草丈(cm)			茎数(本/㎡)			葉色(GM)			葉数(枚)			幼穂長(mm)		
本 年	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差
77.5	99	98	602.0	115	101	38.5	+2.6	+2.9	11.6	-0.1	-0.2	33.0	-44.5	-12.6

※平年値は、直近5か年の平均値。

◆宮城県農政部みやぎ米推進課ホームページで県内の水稻生育状況等を掲載しています。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/komezukuri.html>

(2) 乾田直播栽培

仙台湾沿岸のひとめぼれ乾田直播ほ場では、茎数は多く、葉色は移植栽培の減数分裂期の目安値(35～37)より低くなっています。幼穂長は66mmとなっており、減数分裂期に達しています。(表3)

表3 乾田直播栽培における7月21日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点	播種日	出芽揃期	苗立数 (株/㎡)	7/21調査			
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/20	5/11	210	79.7	596	33	66

3 生育ステージの予測（古川農業試験場、7月21日現在）

7月21日現在の古川農業試験場の作況試験ほの「ひとめぼれ」の生育ステージ予測(表4)及び、県内地域区分別の生育ステージの予測(表5)は以下のとおりです。

7月に入り気温の高い日が続いており、出穂期の予測日も早まっています。最新の天気予報に留意し、今後の管理や病害虫防除の時期に注意してください。

表4 古川農業試験場作況試験ほひとめぼれ生育ステージ予測

移植日	移植時 葉数	予測日			出穂期(実測値)	
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	前年	平年
5/11	2.1	7/10	7/20	7/30	7/28	7/30
5/20	2.5	7/15	7/25	8/4	8/2	8/3

表5 地帯区分別の生育ステージの予測

地帯区分	田植盛期	予測日		
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/12	7/7	7/17	7/28
南部平坦	5/12	7/7	7/17	7/27
仙台湾沿岸	5/12	7/7	7/17	7/29
西部丘陵	5/13	7/8	7/18	7/30
山間高冷	5/15	7/14	7/24	8/11

注 1)

幼穂形成期及び出穂期は「DVR 法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の 10 日後としている。気温はメッシュ農業気象データ（農研機構）により、ステージ予測当日までの実況値とその後 26 日間の予報値を使用している。

注 2)

移植時期の葉数は県生育調査ほ+古試作況試験ほ「ひとめぼれ（5/11 移植）」平均の 3.0 葉としている。

表6 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20 日
減数分裂期	30～120mm	-10～0 cm	15～10 日

4 本田管理

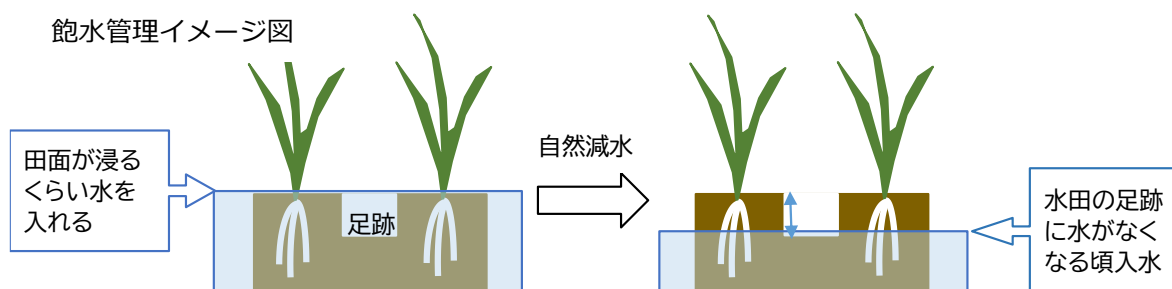
○高温の影響と対策【出穂期以降】

- ・出穂後 5～15 日間に最低気温 23℃以上の高温が連続する場合、白未熟粒が多発し著しい品質の低下を招く危険性があります。水温や地温の上昇を抑止する方法として下記の対策を実施しましょう。

（1）土壌を常に湿潤状態に保つ「飽水管理」

（2）高温時の昼間は深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする「昼間深水・夜間落水管理」

飽水管理イメージ図



- ・出穂後 10 日間の最高気温が高いほど、胴割粒の発生が多くなる傾向があります。上記の水管理で登熟初期の温度を抑制すること、葉色が低いほど影響を受けやすいため、減数分裂期追肥等により出穂期以降も葉色を維持することが重要です。
- ・高温条件で紋枯病や斑点米カメムシ類の発生が多くなります。特に斑点米カメムシ類については、病害虫防除所から注意報が発表されていますので、水稻の生育ステージに注意し適期に防除を行ってください。

(1) 水管理

- ・穂ばらみ期から出穂、開花期前後は水の吸収量が最も多い時期です。低温時を除き、十分に水を与えつつ酸素を供給する間断かんがいを行い、根の活力を維持しましょう。また、高温の場合は、上記を参考に水管理で被害を軽減しましょう。

○基本的な水管理

- ▶ 穂ばらみ期…間断かんがい
- ▶ 出穂・開花期…浅水
- ▶ 登熟期…間断かんがい

(2) 追肥

- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長を測定し、生育ステージを確認しましょう。（表6）
- ・穂揃期に葉色が低下していると、高温による品質低下の影響を受けやすくなります。適切な追肥を行い葉色維持に努めましょう。（表7、表8）
- ・乾田直播栽培など、基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、原則として追肥は行いません。しかし、高温下では窒素肥効の消耗が激しく、地力の低いほ場など、生育ステージにおける葉色の目安よりも著しく低下している場合は、流し込みやドローン等による追肥を検討しましょう。

表7 生育ステージにおける葉色と追肥の目安 ※葉緑素計（GM値）

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm） 出穂25～20日前		減数分裂期（幼穂長30～120mm） 出穂15～10日前	
	葉色の目安 (GM値)	窒素施用量 (N成分/10a)	葉色の目安 (GM値)	窒素施用量 (N成分/10a)
ひとめぼれ	38～40	1.0kg	35～37	1.0kg
ササニシキ	34～36	－	32～34	1.0～1.5kg

表8 追肥の主な効果・影響

		穂数の増加	穎花数の増加	穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

(3) 病虫害防除

イ いもち病

- ・7月23日発表の病虫害防除所の発生予報（以下、発生予報）では平年並の予想ですが、BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定で、仙台では7月12日、大衡村では13日に感染好適条件が揃っており、管内でも一部のほ場で葉いもちの発生を確認しています。
- ・7月中旬以降は、予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下し始めるとともに、追肥等で葉色が濃いほ場は葉いもちが感染しやすい環境となるので、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。特に上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になるため、注意が必要です。
- ・穂いもちの予防粒剤は、出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。
- ・BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病虫害防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

□ 紋枯病

- ・出穂期以降は病勢進展が盛んになるので発生に注意しましょう。特に上から4番目の葉鞘以上に発病すると被害が発生し、上位に病斑が進展している株ほど被害が大きくなります。

- ・高温多湿が発生好適条件で、気温が高く降雨日数が多いと株間湿度が高くなり感染が広がりやすくなります。
- ・発生予報では平年並ですが、前年に発生が多かったほ場では注意が必要です。ほ場をよく観察し、表9の要防除水準を参考に、穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤等で防除を検討しましょう。病斑は、水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

表9 紋枯病の防除要否の判断基準（被害確率 50%で設定）

被害許容水準	穂ばらみ期発病株率		
	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ
収量 5 %以上減収	18%	10%	29%
収量 3 %以上減収	12%	9%	18%
収量 1 %以上減収	10%	3%	14%

ハ 斑点米カメムシ類【7/23 注意報発表】

- ・発生予察では**発生時期がやや早く、発生量が多い**とされています。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻の生育状況を確認し、出穂 10 日前までに行います。また、草刈りの再開は 9 月に入ってからにしましょう。
- ・薬剤防除は、穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除が基本です。2 回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施しましょう。
- ・イヌホタルイやノビエ等が多発しているほ場では、1 回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。
- ・発生の詳細や防除等については、病害虫防除所発行の注意報第 1 号を参照してください。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r8chuiho1.pdf>

ニ 直播栽培の病害虫対策

- ・基本的には移植栽培と同じ管理ですが、直播栽培では一般的に移植栽培に比べて生育ステージが遅く、周辺水田より葉色が濃く経過することから、病害虫の被害を集中して受ける場合があるため、注意が必要です。
- ・イネツトムシは幼虫期に水稻の葉を食害する害虫で、直播栽培では、ときに多発して大きな被害をもたらすことがあります。防除適期は第 2 世代の若齢幼虫が発生盛期となる 7 月下旬から 8 月上旬なので、ほ場を見回り、発生が多い場合には防除を実施しましょう。

東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し（7/25～8/24）

7/23 仙台管区气象台発表より抜粋

予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。2 週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう 1 か月の天候

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
平均気温：高い 降水量：平年並み 日照時間：平年並み

令和 8 年 夏の熱中症等対策声かけ期間(7/1～9/30)

スローガン 「いのちをうばう、夏のひとり作業」